

■日本昔話に学ぶ「善人」と「悪人」

修正： 2023.05.01

投稿： 2023.05.01



●日本昔話に学ぶ「善人」と「悪人」①

とある一見して清楚な女性ですが、

彼女の部屋は「ここは暗黒魔界か？」
と思わせるほどのカオスな空間でした。
人は見た目じゃないんですね…。

//-----

「苦しんでいる人の姿を見るのは楽しい…」という人は
「善人」でしょうか、それとも「悪人」でしょうか？
実は、それだけでは、善人とも悪人とも判断できません。

「苦しんでいる人の姿を見るのは楽しい…」と言われると、
心が卑しい人と思われそうですが、実は、善人であっても、
楽しんで、人が苦しむ姿を見ているものです。

と言うのも、例えば、
自分も苦しんで何かを成し遂げた人であれば、同じように
苦しんでいる人を見ると、応援したくなるものだからです。
そういう話であれば「善人」のような感じがします。

昔から「楽は苦の種、苦は楽の種」と言われているように、
楽の前には苦があり、苦の前には楽があります。

国を代表するようなアスリートともなれば、
食べたいものも我慢し、体のコンディションを常に最高に保ち、
辛い練習に打ち込んでいることであらう。

もし「楽は楽の種、苦は苦の種」なのであれば、
誰もそんな苦しい鍛練などやりはしません。

そうして、「この人、今は苦しんでいるけど、
そのうち幸せになりそうだな…」と想像して、
「苦しんでいる人の姿を見るのは楽しい…」という人もいます。

結局のところ、善人であろうと悪人であろうと、
苦しんでいる人の姿を見るのは楽しいのです。
しかしながら、善人と悪人とでは、

「なぜ楽しいのか？」の理由の部分は正反対です。

実はこの「理由」こそが、その人が
「善人」であるか「悪人」であるかを測る基準だと言えます。
善人と悪人の差は行為ではなく動機に表れるのです。

(続)

//=====//

●日本昔話に学ぶ「善人」と「悪人」②

「善人」か「悪人」かは、
行為ではなく動機によって決まる、
という話でした。日本には、

「努力すれば報われる(報われてほしい)」

という考え方が根強くあります。

努力すれば、望みの学校に進学でき、
努力すれば、望みの会社に就職でき、
努力すれば、望みの老人ホームに入居でき、
努力すれば、望みの病院に入院でき、
努力すれば、望みの死後世界へ旅立てる、

と、誰もが「努力は報われてほしい」
と願って生きています。

しかしもし、一生懸命、努力したにも関わらず、
まったく報われず、不幸になってしまった人がいれば、
そういう人を見てどう感じますでしょうか？

他人の不幸は蜜の味でしょうか？

そんな奴は人としてクズでしょうか？

そうかもしれませんね。ただより重要になるのは、
なぜそう感じたのか、という「**動機**」の部分です。

日本昔話の「**はなさかじいさん**」にて、
動機の大切さが説かれています。動機が間違っていれば、
どんなに畑を耕そうが、どんなに枯れ木に灰を撒こうが、
その行為とは無関係に、悪い結果に行き着く、と説かれているのです。

畑を耕すという行為が大切なのではなく、
枯れ木に灰を撒くという行為が大切なでもありません。
大切なのは「行為」ではなく「動機」です。

枯れ木に灰を撒いて**お金持ちになった人**もいれば、同じく、
枯れ木に灰を撒いて**斬首刑に処された人**もいます。
同じ行為を為しても動機の違いで結果は変わるのです。
(「内から外へ」の原則)

「はなさかじいさん」とはそういうお話であり、
「**運命は動機で決まる**」のようなことを言っているわけですが、
絵本を読んでいる幼稚園児の息子にその旨は伝わるでしょうか…。

(続)

//=====//

●日本昔話に学ぶ「善人」と「悪人」③

日本昔話の「はなさかじいさん」を取り上げて
「善人」と「悪人」を説明しました。それによれば、
善悪は「行為」ではなく「**動機**」によって決まる、
という話でした。

モテない人はどんなに努力しても、
やはりモテないように、**心の卑しい人**が
どんなに善行を積んでも報われることはありません。

なぜか？

心が卑しいままだからです。

ゆえに、そういう人が**まず改めるべき**は
自身の「**心の卑しさ**」です。
言葉遣いや振る舞いをいくら改めようが、
肝心の心を改めない限り、報われることはありません。
(「内から外へ」の原則)

ただ、仮に心を改めることができたとしても、
それはスタートであってゴールではありません。
と言うよりも、本番はここからです。

そもそも「**善悪**」なんてものは、
しよせん人によって**コロコロ変わるもの**です。加えて、
時代によってもコロコロと変わっていきます。つまり、
ある人にとっては善でも、別のある人にとっては悪なのです。
(「見たいように見る」の原則)

このため、本当のその善行が相手のためになっているのか、
その都度その都度、深く考えることが求められます。

例えば、長年、患者に尽くしてきた医療スタッフに対して、
「**私はただ苦しんだだけ、何のために延命したのか!**」と、
闇雲な**延命治療**について怒りをあらわにする患者もいます。

善行を為すことは、それはそれは難しいことなのです。

(完)

//=====//

Web サイト :

心を力学する ー原理・原則に基づく生き方を考えるー

著者 :

時無 和考(Tokinashi Kazutaka)